

検討委員会報告書等に対するご意見について

委員名	ご意見
佐藤委員 (徳島県文化振興財団)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの阿波おどりの運営体制等について、詳細に分析がなされており、報告書の内容を踏まえ、今後の運営体制等を考えてもらいたい。 ・報告書にも指摘されているが、「文化継承や徳島市民のための阿波おどり」という公的側面の重要性を考えると、経済的な合理性だけに拠って立つのではなく、旧徳島市観光協会に代わりうる、公的な観光を推進する組織の設置等を前向きに検討していくのがよいのではないか。
犬伏委員 (徳島市文化振興公社)	<ul style="list-style-type: none"> ・累積赤字の問題について、かなり踏み込んだ検証がなされていると感じた。 特に、市観光協会と徳島新聞社の不透明な会計処理、栈敷の3年償却、収益が見込めないまま事業規模を拡大してきたこと、また、徳島市による唐突な観光協会の破産手続き、など過去の経過が詳細に検証されており、新しい運営体制の構築に向けて大変貴重な資料になるものと思う。 ・阿波おどりの新しい運営体制を再構築のための5つの重要なポイントが提示され、特に「栈敷管理基金」と「リスク管理基金」の設置は継続して開催するために、必要不可欠なものと思う。 ・「市民参画による運営体制構築（報告書27～28ページ）」では、市民参加型の阿波おどりを実現するための具体的な方策が盛り込まれ、できる限り多様な主体の参画が重要であると感じた。 ・新実行委員会については、「新たな実行委員会は充て職ではなく、阿波おどりのために一丸となって取り組むことのできる人が主体性を持って参画することが望まれる」や「特に次世代の阿波おどりを担う若年世代から委員を選出すべきであり、公募も検討に値する」としており、理想的な組織のあり方が提案されたと感じた。 ・当公社では、これまでも阿波おどり期間中にシビックセンター（さくらホール）での無料で観覧できる阿波おどり公演を開催するなど、伝統文化の継承並びに徳島駅前の活性化に携わってきた。今後においても徳島の伝統文化である阿波おどりの継承等に貢献していきたい。
森浦委員 (徳島県旅館ホテル生活衛生同業組合)	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のように「観光協会」を中心とした実行委員会を作り、当該組織の会長や副会長は出来るだけ政治活動を行わないよう定款等で定義付けしてはどうか。 ・全国の県庁所在地で観光協会がないのは寂しい。

委員名	ご意見
<p>中村委員 (新町川を守る会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁所在地で観光協会がないのはおかしいと思う。 ・阿波おどりは地元の人がやるべきである。
<p>高木委員 (水際文化村フレンドリー協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・阿波おどり事業を担う新たな実行委員会について、検討委員会の報告書では「実行委員には地域を代表する多様な経済・社会の諸団体から、充て職ではなく、阿波おどりのために一丸となって取り組むことができる適任者・選任者が主体性をもって参画することが望まれる」と触れられていたが、まさにそのとおりだと思う。 ・徳島の阿波おどりを今後何十年先にも受け継いでいくには、新たな実行委員会の委員には阿波おどりに携わる団体（行政、阿波おどり団体、商店街組合、地元団体等）は勿論のこと、今回の阿波おどりネットワーク会議のように、まちづくりに携わる市民団体などにも幅広く参加してもらい、街全体で阿波おどりを運営していく体制を構築すべきだと思う。 ・阿波おどりの運営事務局については、「新実行委員会の運営を強力にサポートできる人員と予算を有する組織とすべき」とされたが、来年度の阿波おどり開催までの残された時間を考えると、一から新たな組織を立ち上げるのは厳しいのではないか。徳島市内を活動拠点にしている、人的・財政的にも安定した公益的団体に担ってもらいたい。 ・新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株等）など、今後どのような感染状況が十分見通せない状況が続いていることから、新たな運営体制で初めて行う阿波おどりについては、フルスペックでの開催を前提とするのではなく、感染状況等を踏まえた開催規模を検討すべきであると思う。まずは手堅く、数年かけて徐々に身の丈に合った開催規模にしてはどうか。
<p>鈴江委員 (徳島都市開発)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの運営体制について、事業費増加の要因分析や事実経過等、短期間で詳細な検証がなされていると感じた。 ・観光協会と徳島新聞社の共催で実施された阿波おどり事業において生じた累積赤字の原因について、無料演舞場やシャトルバス等の収益を生まない事業のほか、有料演舞場事業においても、十分な財源確保がなされないまま規模が拡大されたこと、台風等の天候リスクに備える体制が整備されていなかったことが運営面の問題であったと指摘されており、リスク管理等の重要性を改めて考えさせられた。 ・阿波おどり開催に欠かすことができない積金の取得について、財源確保や返済の計画なく、借入金に依存してきたこと、積金更新のための積立も存在しなかったが財務面の問題であると指摘されており、この問題については新たな運営体制

委員名	ご意見
<p style="text-align: center;"> 鈴江委員 (徳島都市開発) ※つづき </p>	<p>に移行しても重要な部分になってくると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書では、栈敷のライフサイクルコストを算出し、経費負担を平準化させる「栈敷管理基金」の創設が提言されているが、現在ある栈敷も更新してから、既に20年以上経過しており、近い将来更新時期を迎えるが、この栈敷の更新経費を新たな運営主体だけで負担することは難しいと思われることから、行政には、阿波おどり全体の経済効果等を踏まえ、栈敷の維持管理や公益的的事业に対し、継続的で手厚い助成の実施など側面的な支援を検討してもらいたい。 ・当社としても、中心市街地の活性化やにぎわい創出のため、これまでも阿波おどり期間中に、アミコビル2階のペデストリアンデッキで阿波おどりイベントを開催してきた。今後においても、徳島の伝統文化である阿波おどりを次世代につないでいくため、イベント開催だけでなく、社を挙げて阿波おどり事業に貢献して参りたい。